

【1】序論

1-1 総合計画の位置付け

- 本市の最上位計画
- 目指すべき将来都市像を明らかにするとともに、総合的かつ計画的な市政運営を推進するために、市民にまちづくりの長期的な展望を示すものです。

1-2 計画策定の趣旨

新型コロナウイルスの感染拡大は、市民生活や市内経済に深刻な影響をもたらし、現在もなお厳しい状況が続いており、様々な社会変化に対処する必要があります。また、市民がこれまで以上に安全・安心で快適な生活を送ることができ、活力に満ちた本市の未来をつくるためには、少子高齢化やDXなどに対応していく必要があります。

そのため、これらの課題解決、急激な社会変化に対応するため、明確なビジョンと戦略的な計画を策定することがより一層重要であることから、新たな時代に対応できる新しい行政指針として第3次北杜市総合計画を策定します。

1-3 計画の構成・期間

総合計画全体のあり方や個々の計画の役割などを踏まえて、明快性の向上、効率性の向上を図るため、「基本構想」と「基本計画」の2層構造とします。

また、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」と「行財政改革プラン」との一体的な推進を図るため、総合計画に一体化します。

基本構想
(10年)基本計画
(前後各5年)

基本構想（長期ビジョン）

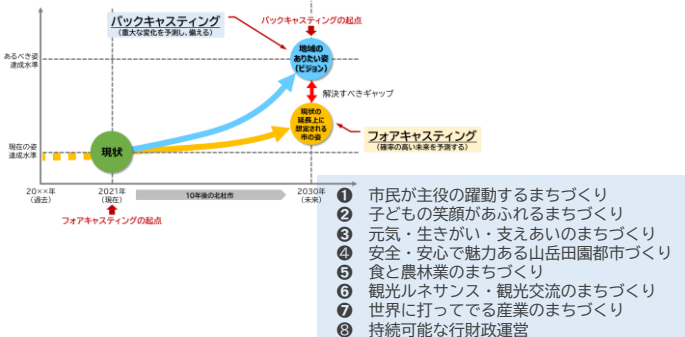
本市の特性や今後の課題などを踏まえながら、本市が目指すまちづくりの理念と目指すべき将来像を示し、それを実現するために必要な基本方針を明らかにします。

基本計画（中期ビジョン）

基本構想で定められた基本目標を実現するための基本的な計画と施策を総合的・体系的に示すものです。また、市政の向かう大きな方向性を明らかにし、優先化・重点化すべき取組（リーディングプロジェクト）を明示します。

1-4 まちづくり・計画策定の視点

本市を取り巻く社会経済情勢の変化を見据えた2030年の本市のありたい姿（将来像）を明確にし、そこに向かって課題解決を図るバックキャストिंगの手法を取り入れます。また、将来像の策定にあたっては、上村市長が施政方針で掲げた8つのまちづくりの戦略（視点）により、計画を策定します。

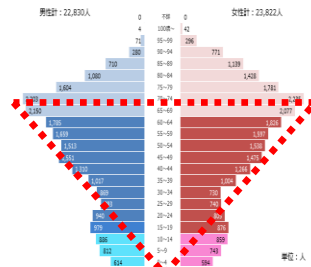


【2】北杜市をとりまく状況（現状と課題）

2-1 人口

人口構造

本市の人口構造は、「逆三角形型」であり、高齢層の人口が多く、若年層が少ないため、自然減が続いています。



図表 北杜市の人口ピラミッド

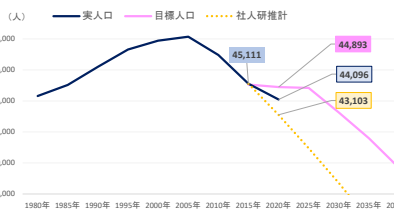
合計特殊出生率の推移

合計特殊出生率をみると、平成19（2007）年以降、県は回復傾向で推移しているが、本市ではほぼ横ばい〜減少傾向で推移しています。平成29（2017）年には、県平均が1.49に対して、市は1.35と低い水準にあります。



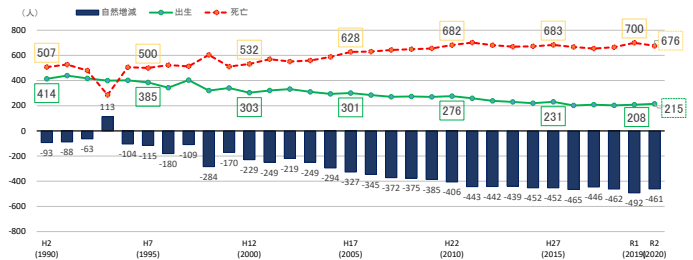
総人口の推移

本市の人口は、昭和55（1980）年から平成16（2004）年にかけて48,817人まで増加しましたが、その後は減少に転じ、令和2（2019）年で、約44,000人となっています。

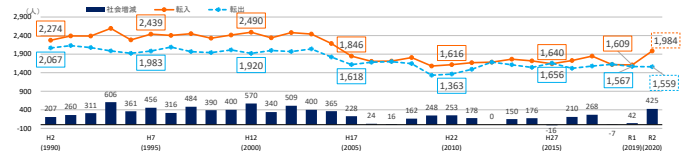


人口動態

自然増減の推移は、現在までほぼ死亡者数が出生数を上回る自然減が続いており、近年は、死亡者数が出生数の約3倍になっています。社会増減については、継続的に達成しています。60歳以上で大きく転入超過している一方で、20代の転出超過が増加しています。



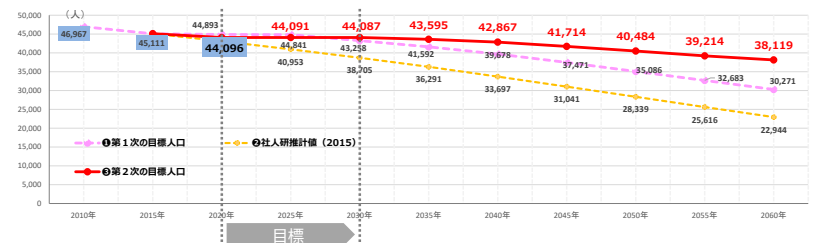
図表 出生数と死亡数の推移



図表 転入数と転出数の推移

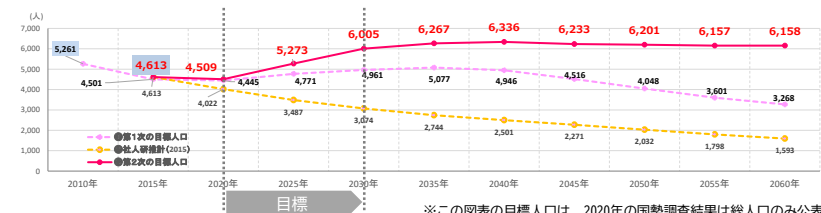
将来人口

将来人口は、「10年で子どもの数を2倍」を目標とし、各種施策を講じることで、令和12（2030）年に常住人口規模44,000人の維持や持続可能な人口構造の構築を目標とします。



目指すべき将来の方向

本市の将来を展望するにあたり、総人口の推移という視点だけでなく、将来的に持続可能なまちとなるような人口構造の構築を目指す必要があります。「子育て世代等の転入促進」「青年層のリターン促進」「20歳代の転出抑制」「合計特殊出生率の上昇」に早急に取り組み、改善する必要があります。



図表 年少人口（0～14歳）の推移

※この図表の目標人口は、2020年の国勢調査結果は総人口のみ公表されているため、2015年国勢調査の人口構成比を用いた試算したものです。

2-3 主な産業

本市の外貨獲得及び雇用をけん引している基盤産業は、次のとおりです。このうち域際収支がプラスにもなっているのが、「農業」「食料品製造業」「窯業・土石製造業」「宿泊業」「はん用・生産用・業務用機械」で、これらの基盤産業を重点的に振興していくことが雇用を確保していくうえでは重要です。

また、農業、食料品製造業、観光産業との連携を図ることで、地域内経済循環を促していくことも経済効果を高め、地域ブランドを確立していくうえでも重要です。

2015年時点 付加価値額 1,798億円

第一次産業	第二次産業	第三次産業
・農業	・食料品（飲料・たばこ・飼料製造業） ・窯業・土石 ・はん用・生産用・業務用機械 ・建設業	・宿泊業 ・飲食業
87億円	934億円	777億円

2-4 財政

歳入面は、人口減少に伴い市税や地方交付税の減少が見込まれます。

歳出面は、公共インフラの老朽化による維持管理コストの経常経費の増加や高齢化に伴う医療、介護、福祉などの社会保障費等の増加が見込まれるため、今後も厳しい財政状況が続くものと言えます。

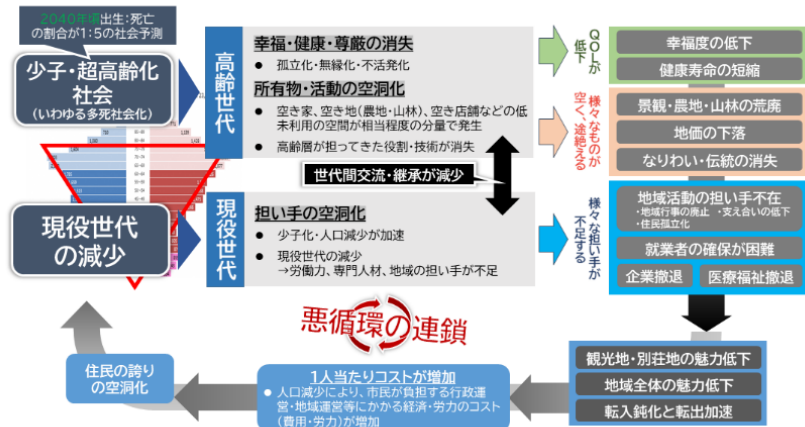
より一層の事業費の削減、圧縮のための工夫や合意形成に努めます。

【3】負のシナリオ

「死亡者数の増加」と「現役世代の減少」が同時に進行することで、様々な課題が顕在化し、そのことにより地域の空洞化が一層進むという悪循環の連鎖が起きる可能性があります。市内の各所に生じる「空白」をいかに埋めていくかが大きな課題となります。

2040年の未来の北杜の姿 ～負のシナリオ～

地域の“空洞化”により、様々な問題が顕在化し、北杜市を選ぶ人・企業が減少する悪循環が起きる



【4】基本方針

4-1 基本コンセプト

人と自然と文化が躍動する環境創造都市

～ 北杜新時代 幸せ実感 チャレンジ北杜 ～

4-2 2030年、北杜市のありたい姿（目指すべき将来像）



第3次北杜市総合計画の全体構成イメージ

第1部 基本構想

現状と課題

- 人口ピラミッドは「逆三角形」。2030年には高齢人口が生産年齢人口を上回る見込み。
- 死亡者数→増加、現役世代→減少
- 空き家、空き地など所有物の空洞化、担い手の空洞化などが進み悪循環の連鎖が懸念される。
- 市内各所に生じる“空白”をいかに埋めていくかが大きな課題



SDGsの理念を踏まえる

市民の意見

- 総合計画審議会
- 市民ワークショップ
- 市民アンケート 等

未来の北杜の姿 ～地域のありたい姿のバックキャスティング～



人と自然と文化が躍動する環境創造都市
— 2030年の地域のありたい姿 —

スローガン

北杜新時代 幸せ実感 チャレンジ北杜

まちづくりの8つの視点

- 市民が主役の躍動するまちづくり
- 子どもの笑顔があふれるまちづくり
- 元気・生きがい・支えあいのまちづくり
- 安全・安心で魅力ある山岳田園都市づくり
- 食と農林業のまちづくり
- 観光ルネサンス・観光交流のまちづくり
- 世界に打って出る産業のまちづくり
- 持続可能な行財政運営

まちづくりの8つの視点を踏まえて政策、施策などを位置付ける。（市長マニフェストの落とし込み）

人口ビジョン(2015～2060)

第2部 基本計画

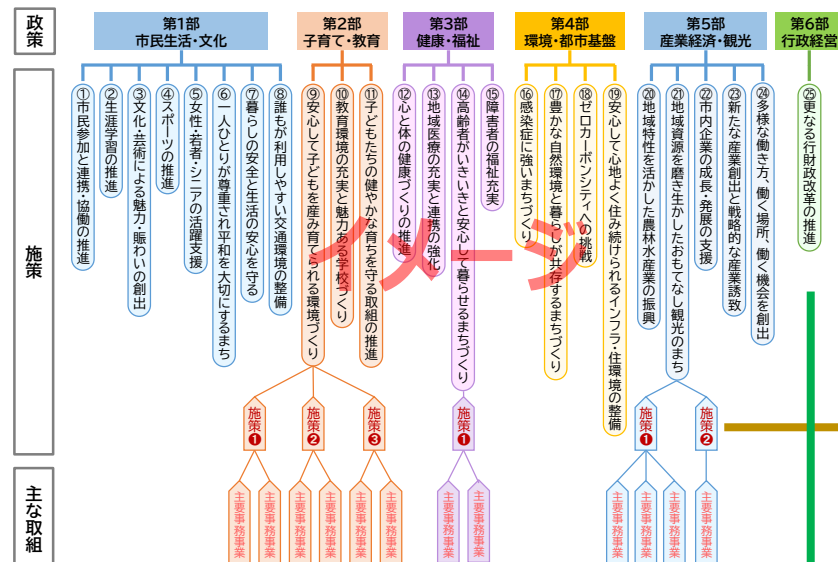
北杜新時代 幸せ実感 チャレンジ北杜

第1章 リーディングプロジェクト(第2次まち・ひと・しごと創生総合戦略改訂版)

攻	未来をつくる戦略	LP. I	子育て・教育で選ばれる都市をつくる	基本PJ	◎子育て ◎学校教育
		LP. II	世界で戦える地域産業をつくる	基本PJ	◎観光 ◎食と農
守	未来に備える戦略	LP. III	ファンと未来を共創する	基本PJ	◎移住・定住 ◎北杜ファン
		LP. IV	人口減少期でも魅せる北杜をつくる	基本PJ	◎持続可能性 ◎DX
		LP. V	市民総活躍の場をつくる	基本PJ	◎健康・生涯活躍・多様性 ◎共生社会
		LP. VI	変化に強い安心の地域をつくる	基本PJ	◎防災・医療 ◎地域強靱化

未来のありたい姿の実現に向け、各部門を横断して、先導的なプロジェクトを進めることで、基本構想の実現に向けた実効性を高める

第2章 部門別計画



個別計画

第3章 行財政改革プラン

行財政改革プラン2021（仮称）

総合計画の実現を支え

行財政改革プランを位置付け（独立型）、総合計画と一体的に管理することで、統制力及び実効性を高める。